



ミズトラノオ *Pogostemon yatabeanus* (2010,10.06)

も く じ

埼玉県内植物の新知見 - 「埼玉生物 44 号」以後の記録 - P. 2

活 動 レ ポ ー ト

総会報告 P. 3

第1回キタミソウ観察会(矢島) P. 4

野外観察会報告(山下) P. 5

NPO公開講座報告(三上) P. 6-7

あとがき P. 8

埼玉県内植物の新知見 — 「埼玉生物 44 号」 (2001) 以後の記録 —

矢島民夫

埼玉県高等学校生物研究会の会誌「埼玉生物 41 号」(2001)と「埼玉生物 44 号」(2004)に「1998 年版埼玉県植物誌」以後の新知見(1)、(2)が報告されている。その後の県内の新知見について「さいたま植物通信」を中心にまとめると以下ようになる。

さいたま植物通信 21 号 (2004) ~40 号 (2009) の記録

和名	学名	産地	採集年	採集者	同定者	文献	備考
アレチニシキソウ		所沢市小手指公園	2003/9/5	愛川敬武	愛川敬武	植物通信21	帰化
ヒメキンセンカ		入間市野田入間川河川敷	2004/3/14	牧野彰吾	牧野彰吾	植物通信21	帰化
ヒメホテイソウ		川島町畑中	2003/7/27	宇津木達	高橋秀男	植物通信21	帰化
バラモンギク		所沢市本郷	2004/5/1	愛川敬武	愛川敬武	植物通信22	帰化
ハマヤブオ		川島町正直	2004/8/21	宇津木達	愛川敬武	植物通信23	
ウチワダイモンジソウ		大滝村滝川軌道跡	2004/10/10	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信24	変種
ギネアキビ		川越市中町	2004/11/2	愛川敬武	愛川敬武	植物通信24	帰化
タカオシケテシダ		飯能市小瀬戸	2004/12/7	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信24	
アライトツメクサ		北本市荒井	2005/6/4	愛川敬武	小澤正幸	植物通信26	帰化
コガネガヤツリ					落合良一	植物通信26	標本不明
フトヒルムシロ		川越市笠幡千才池	2005/7/3	愛川敬武	愛川敬武	植物通信26	
ホウライカズラ		飯能市東吾野虎秀入	2005/4/9	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信26	
タニガワスゲ		飯能市多峰主山本郷入り	2001/4/17	太田和夫		植物通信27	
ヒトツボクロ		飯能市名栗天狗岩	2005/7/4	牧野・三上	牧野・三上	植物通信27	帰化
ヒナキキョウソウ		川越市中原町	2005/6/1	牧野彰吾	牧野彰吾	植物通信27	帰化
オオヤマレンゲ		両神村尾の内沢	2005/7/5		矢島民夫	植物通信28	写真
ウチワゼニグサ		宮代町山崎			愛川敬武	植物通信29	無採集
オオイソソウ	藻類				愛川敬武	植物通信30	無採集
コツバヤエムグラ		さいたま市浦和区大崎	2006/6/3	広沢信男	愛川敬武	植物通信30	帰化
アカボシツリフネ		吉川市三輪野江	2006/6/8	矢島民夫	矢島民夫	植物通信34	帰化
キバナウンラン		秩父市浦山ネイチャーランド	2007/6/17	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信34	帰化
コキツネノボタン		吉川市三輪野江	2007/5/29	矢島民夫	矢島民夫	植物通信34	
ノハラムラサキ		秩父市浦山ネイチャーランド	2007/6/17	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信34	帰化
カイシジノキ(ヤマシオジ)		秩父市浦山大久保谷	2007/8/1	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信35	シオジの品種
ミズキンバイ		さいたま市見沼区深作沼	2007/10/8	三上忠仁	矢島民夫	植物通信35	
トネテツキ		寄居町三ヶ山	1989/8/10	落合良一	牧野彰吾	植物通信35	落合標本
ナガエコミカンソウ		熊谷市万平町万平公園	2007/9/2	四分一平内	太田泰弘	植物通信35	
ハイロヨモギ		秩父市浦山ネイチャーランド	2007/8/4	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信35	帰化
ハタケテツキ		鴻巣市原馬室	2007/9/2	牧野彰吾	牧野彰吾	植物通信35	
アオホソバタデ		川越市新宿2	2007/9/7	愛川敬武	愛川敬武	植物通信36	植栽逸出
コガシワ		秩父市吉田久長	2007/9/12	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信36	雑種
ミツバオオハンゴンソウ		秩父市吉田久長	2007/9/12	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信36	帰化
アオミヤマトウバナ		秩父市浦山栗山	2008/9/29	岩田豊太郎	岩田豊太郎	植物通信39	亜種
イリオモテニシキソウ		比企郡滑川町中尾	2008/9/20	愛川敬武	愛川敬武	植物通信39	帰化
ヒメグルミ		熊谷市広瀬野鳥の森	2008/7/14	愛川敬武	愛川敬武	植物通信39	栽培
ロベリアソウ		寄居町小園	2008/7/23	愛川敬武	愛川敬武	植物通信39	帰化
カイジンドウ		都幾川村西平弓立山西尾	2003/8/28	高橋重男	高橋重男	植物通信40	要再同定
ワタラセツリフネ		北本市石戸宿		三上忠仁	三上忠仁	植物通信40	

さいたま植物通信 41 号 (2015) 以後の報告

和名	産地	採集年	採集者	同定者	文献	備考
クゲヌマラン	加須市、秩父市、さいたま市	2015.5.6	木山加奈子	早川宗志	自然の博物館研究報告	木山、発表済
ミスズラン	秩父市木賊山	2003.8.12	三上忠仁	三上忠仁	植物通信41号	三上、発表済
トリゲモ類・イトトリゲモ	飯能市	2016.9	小澤正幸	小澤正幸	植物通信43号	小澤他、発表済
ヒメリュウキンカ	岩槻区城址公園	2016.3.27	三上忠仁	三上忠仁	植物通信43号	三上、発表済
カラクサシユンギク	羽生市、さいたま市	2012.5.24	三上忠仁	三上忠仁	植物通信43号	三上、発表済
スズメノカタビラとアオスズメノカタビラ	県内各地		牧野彰吾	牧野彰吾	植物通信44号	牧野、発表済
ヒメチチコグサ	さいたま市岩槻区永代橋	2015.11.3	三上忠仁	三上忠仁	植物通信47号	三上、発表済

これら以外にも埼玉県内で採集されているが、正式な報告がなされていない植物種も多い。また、今まで報告された記録や標本も再検討を要するものを含め(別表)が少なからずあり、これらを早急に「さいたま植物通信」に報告されることを期待したい。

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成 30 年 5 月 27 日（日）10:00～12:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 49 名中 45 名（うち書面による出席 18 名）

今年は、役員改選の年に当たり理事の改選が行われました。

新たに 1 名の新入会員と退会者 1 名の会員異動が報告されました。

牧野代表理事が議長を務め、以下の議題が審議されました。

平成 29 年度事業報告、決算報告、

平成 30 年度事業計画、予算案などが審議されました。

新役員の選任、木口理事の辞任に伴い三上新理事が推薦される。他の役員は留任となりました。以上の議案は承認されました。



総会に先立ち「第 1 回理事会」が下記のように開催されました。

日 時：平成 30 年 5 月 27 日（日）9:10～10:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：理事 11 名中 11 名（内書面による出席なし）

平成 29 年度事業報告、決算報告、平成 30 年度事業計画、予算案などが審議されました。

木口理事の辞任に伴い、新役員（理事 11 人、監事 2 人）の選出

「第 2 回理事会」が、下記のように開催されました。

日 時：平成 30 年 5 月 27 日（日）11:10～11:25

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：理事 11 名中 11 名（内書面による出席なし）

新代表理事の選出 代表理事に牧野彰吾理事を再任されました。

新副代表理事の選出 副代表理事の順位を矢島民夫理事、米林仲理事、田中實理事、尾形一法理事の順に決定されました。

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成 30 年 5 月 27 日（日）13:30～15:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 27 名

- 1 平成 30 年度希少野生動植物種選定調査(植物)報告書
- 2 平成 29 年度会計報告、平成 30 年度予算案報告
- 3 平成 29 年度に行うべき業務の打ち合わせが行われました。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入方法について説明がありました。

【第1回 キタミソウ観察会】

日 時：平成 31 年 2 月 24 日（日） 8:50～12:00

場 所：草加市青柳葛西用水

参加人数：42 名（指導者：矢島民夫理事） 天気：くもり

活動内容：キタミソウを観察しよう

草加市川柳文化センターに 8 時 50 分集合し、開会あいさつや諸注意の後 9 時 00 分に文化センターを出発する。

葛西用水の右岸の道路を南下し、東京外かく環状道路を渡り、青柳小学校脇のなかよし橋付近から葛西用水内に入り、ルーペを使いながらキタミソウの小さな花を観察する。

今年は昨年よりやや水量が多く、開花個体も例年より多く感じられた。

用水内にはコイヌガラシ、トキワハゼ、タガラシ、コギシギシ、オオカワヂシャ、ミズハコベ、オキジムシロ、オランダミミナグサ、コタネツケバナ、ムシクサ、ノミノフスマ、ノボロギク、ノゲシ、スズメノテッポウ、キツネアザミなどの植物が生育していた。



葛西用水内で解説中



キタミソウ自生地と花

青柳文化センターにもどり観察した植物を整理し、いくつかの植物について解説をした。この観察会は「そうか生きもの調査」の一環として行われており、初心者に市内の植物について興味を持ってもらうことを、中心に行われているものである。

（文責：矢島民夫）



<野外観察会報告>

日時：平成31年3月30日（土）

場所：東京都八王子市 裏高尾方面

参加者：12名（指導者：山下 裕理事） 天気：晴れ

活動内容：早春の植物観察

今回は、スマレの宝庫である、東京・裏高尾經由で高尾山山頂まで観察を行いました。8時50分 JR 高尾駅を集合して、西東京バス9時10分の小仏行きバスに乗り、日影バス停で下車し日影沢沿いを歩き、いろはの森を經由して山頂に行き、帰りは高尾山ケーブルカーで下山しました。

日影沢入り口では、この時期、埼玉県では見られないキクザキイチゲが3株咲いていて見事でした。他にカタクリ、アズマイチゲ、ニリンソウ、ジロボウエンゴサク。沢沿いにはヤマリソウ、ヨゴレネコノメなどが花をつけていました。スマレに関しては種ごとに群落をつくっていて、まずはタチツボスマレ。その中に混じってアオイスミレがひっそりと自己主張をしていました。続いてナガバノスマレサシシンです。このスマレは白を

基調として、うっすらとスカイブルーを着色し大群落をつくっていました。途中のキャンプ場で小休止したあと、すぐに目についたのはタカオスマレです。ヒカゲスマレの品種で、葉が赤褐色になっているのが特徴です。近くにはヒカゲスマレもあり、花に薄いピンクの筋が入っていて、品格があります。

沢から離れて、いろはの森を登っていくと、ヒナスマレの群落に出会いました。ピンクの可愛い花で、葉に斑が入っているフイリヒナスマレも近くにありました。ここからはモミの大木をみながらひたすらに高度を稼いでいきます。道沿いにはミヤマシキミの白い花。埼玉県ではみられないキジョランの丸い厚い葉をみながら、ふと足元に見慣れないカンアオイを1



高尾山山頂



キクザキイチゲ

株目にしました。ただのカントウカンアオイと最初は思いましたが、葉にやや照りがあったので、すぐに花を探しました。調べた結果タマノカンアオイだとわかりました。この植物も県内ではめったに見られない希少種です。このように、近隣の都県と植物を比較検討しながら、観察会を開催することもいいと思います。

（文責：山下 裕）

<公開講座報告> 三上 忠仁理事

今年度の公開講座は下記の3回実施された。



第一回公開講座風景



テイカカズラの花

第1回 6月9日(土) 9:00~14:30、寄居鉢形城跡および荒川河川敷にて、春の鉢形城址の植物観察を中心に行った。

城址内に残に生育する多くの在来種、外来植物を観察することができた。また、林業試験場だった当時植栽された樹木の観察も行うことができた。常緑樹のセコイアと落葉広葉樹のメタセコイアの観察、テーダマツの刺のある毬果を観察することができた。また、フウとモミジバフウの葉や果実の違いについても観察した。



テーダマツの毬果

第2回 10月20日(土)に9:00~14:30、春と同じ寄居鉢形城跡および荒川河川敷にて植物観察会を行った。8:50 寄居駅南口階段下集合して、13名の参加で行われた。



ノアザミの頭花



ノハラアザミの頭花

秋の植物を観察するには、少し時期的に遅かったが、城址の陽だまりに沢山の在来植物を見ることができた。午後には荒川河川敷に移動して、崖や河川敷の植物を観察することができた。

河川敷では、タコノアシやヌマガヤツリなどの希少植物を見つけたことができた。斜面では四角形の断面をもつシホウチクが植栽されており、秋に出る食用になるタケノコを見ることができた。南向き斜面にはバショウが逸出して生育しておりちょうど花をつけていた。葉の根元から出る花柄の付け根にバナナのような雌花の花序が、垂れ下がった先端には雄花の花序が付いていて、多くの参加者を楽しませてくれた。

第二回公開講座風景



シホウチク

バショウの花 :

バショウの雄花 (左) と 雌花(右)

第3回

3月24日(日)9:00~14:00に17名参加し、白久駅集合、解散で実施された。午前中には谷津川を遡り熊倉山麓における早春の植物観察を午後には白久駅の北側にある希少植物の自生地を巡った。谷津川ではアブラチャン、カヤラン、アズマイチゲ、ハナネコノメ、レンプクソウなどを、希少植物の自生地ではカタクリ、キバナノアマナ、ニリンソウ、セツブンソウなどを観察することができた。



第三回公開講座風景

【あ と が き】

今年度は「環境省の第5次レッドリスト作成現地調査」が最終年となりました。平成30年度「県内希少野生動植物種」植物種選定調査報告書の作成も、例年のように無事終わることができました。

また、毎年繰り返される調査費の不足問題を何とか解決できるように、牧野代表理事はじめ努力しているところです。昨年に引き続き「侵略的外来生物の調査」報告も一部会員のご努力により実施され、さらなる充実した調査活動ができるようになったところです。

増補改訂版「フィールドで使える 図説 植物検索ハンドブック」はだいぶ落ち着いたようで、今年度も増刷などの話は伝わってきませんが、デジタル版の出版はすでに実現したようです。再び改訂作業が起きることも考えられますので、心づもりは持っていたと思います。

本年は会報「さいたま植物通信46号、47号」を発行することができました。「さいたま植物通信」は毎年2回の発行を考え予算を計上しています。当面は年2回の予定ですが、原稿の集まり具合では増刊も考えられます。長く続くようみなさんの寄稿をお待ちしています。

<表紙の写真>

ミズトラノオは埼玉内では、今のところ生育場所が確認できず、すでに絶滅したものと思われる。写真は「筑波実験植物園」で撮影したものある。寺崎日本植物図譜（寺崎 1933）に用いられた標本は、年不詳9月上旬 戸田原（埼玉県戸田市）で採集されたものとの記載がある。また、深作沼動植物調査報告（大宮市文化財調査報告書第14集 1980）には標本写真が載っている。与野植物誌（1978）には「かつては市内の所々に自生したが、今は見当たらない」とされている。

最近、ト沢先生の標本を整理していると、ミズネコノオの標本（旧大宮市宝来、平成6年9月25日）が残されていた。この標本を見ると深作沼のものはミズネコノオの誤同定のように思われる。牧野植物図鑑ではミズネコノオとミズトラノオは同じものとされ、本来のミズトラノオはムラサキミズトラノオとすべきであると指摘されている。花が咲くとミズネコノオは花糸に短毛まばら、花は白花～淡紅色。ミズトラノオは花糸に長毛密生、花は写真のように紫色が濃くなるとされている。なお、日本野外植物図譜3（奥山 1984）のミズネコノオの標本は埼玉県越谷市産とされている。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO.12

2019年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857